目次

第一講　演習問題㊀・㊁・㊂……p.2
第二講　演習問題㊀・㊁……p.12
第三講　演習問題㊀・㊁・㊂……p.18
第四講　演習問題㊀・㊁・㊂……p.32
第五講　演習問題㊀・㊁……p.44

第一講　演習問題 一・二・三

一　次の文章を読んで、あとの設問に答えよ。（なお設問の都合で、返り点、送り仮名を省いたところがある。）

管(くわん)仲(ちゆう)、隰(しふ)朋(ほう)、従(ヒテ)二桓(くわん)公(こうニ)一而伐(ツ)二孤(こ)竹(ちくヲ)一。春往(キテ)冬[1]反。[2]迷惑失道。管仲曰(ハク)、[3]老馬之智(ヲ)可(キ)レ用(フ)也(ト)。乃(チ)放(チテ)レ馬(ヲ)而随(ニ)レ之(ニ)、[4]遂(ニ)得(タリ)レ道(ヲ)。行(クニ)二山中(ヲ)一無(シ)レ水。隰朋曰(ハク)、蟻(ハ)冬(ハ)居(リ)二山之陽(みなみニ)一、夏(ハ)居(ル)二山之陰(きたニ)一。蟻(ぎ)壌(じやう)一寸(ニシテ)而有(リト)レ水。乃(チ)掘(リ)レ地(ヲ)、遂(ニ)得(タリ)レ水(ヲ)。以(テスルモ)三管仲之聖(ト)而(と)二隰朋之智(ヲ)一、[5]至其所不知、[6]不難師於老馬与蟻。今(きん)人(じん)不(レ)知(ラ)下以(テシテ)二其(ノ)愚心(ヲ)一而師(トスルヲ)中聖人之智(ヲ)上。不(二)亦過(あやまタ)一乎(や)。

（『韓非子』説林・上）

（注）○管仲・隰朋――春秋時代の桓公の名臣。
○桓公――斉の国の王。
○孤竹――河北省に存在した国の名。
○蟻壌一寸而有水――蟻塚が高さ一寸ならば、その下に水がある、の意。
○管仲之聖而隰朋之智――この「而」は「与」と同義。

問1　傍線部１「反」と同義の漢字を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　転　②　対　③　帰　④　逆　⑤　終

問2　傍線部２「迷惑失道」の解釈として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　だまされてわけがわからなくなった。
②　迷って道がわからなくなった。
③　惑わされて死んでしまった。
④　悩んで生き方がわからなくなった。
⑤　困って道理を見失った。

問3　傍線部３「老馬之智」とあるが、老馬にはどのような知恵があるのか、簡潔に説明せよ。

問4　傍線部４「遂」と同じ読みをする漢字を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　漸　②　凡　③　即　④　終　⑤　適

問5　傍線部5「至其所不知」の読み下し文として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　その知らざる所に至りては
②　その至る所を知らざるに
③　至りてその所を知らずして
④　至りてその知らざる所を
⑤　知らざるその所に至りなば

問6　傍線部6は「老馬と蟻とを師とするを難(はばか)らず」と読む。この読みにしたがって返り点を施せ（送りがなは不要）。

不　難　師　於　老　馬　与　蟻　。

問7　この文章の主題として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　今の人が聖人の知恵ではなく、老馬や蟻の知恵から学ぶのは愚かなことである。
②　今の人は愚かであるから、聖人の知恵に学ぶ前に老馬や蟻から学ぶべきである。
③　聖人の知恵は老馬や蟻の知恵よりはるかに優れていることを、愚かな今の人は知らない。
④　老馬や蟻などの生物の知恵が最も優れており、今の人は積極的にその知恵を活用すべきである。
⑤　老馬や蟻からも学ぶことはあるのだから、今の人が聖人の知恵から学ばないのは間違っている。

二　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）

臣聞、求木之長者、必固其根本、欲流之遠者、必
浚其泉源、思国之安者、必積其徳義。源不深而望流
之遠、根不固而求木之長、徳不厚而思国之
治、雖在下愚、知其不可。(1)而況於明哲乎。人君当神
器之重、居域中之大、(2)将崇極天之峻、永保無疆之休。
不念居安思危、戒奢以倹、徳不処其厚、情不勝其
欲、斯亦伐根以求木茂、塞源而欲 (3) 長者也。凡
百元首、承天景命、莫不殷憂而道著、功成而徳衰。有善
始者実繁、能克終者蓋寡。豈其取之易而守之難
乎。昔取之而有余、今守之而不足、(4)何也。夫在殷憂、必

竭つクシテレ誠ヲ以テ待チレ下ヲ、既ニ得タレバレ志ヲ則チ縦ほしいままニシテレ情ヲ以傲おごルレ物ニ。竭クセバレ誠ヲ則呉越モ為リ二一体ト一、傲レバレ物ニ則骨肉為二行路一。

（魏徴「論二時政一疏」による）

注　下愚……とてもおろかな人。ここでは自身を指す。　当神器之重……帝位にあること。　居域中之大……天下に君臨すること。
崇極天之峻……君主として徳義を高めること。　保無疆之休……終わりのない平安を維持すること。　凡百……さまざまな。
景命……大いなる天命。　殷憂……深く心配すること。　道著……道徳的に優れていること。　待……対応すること。
呉越……敵対関係の例え。　骨肉……肉親。　行路……通行人。

〔問一〕　傍線(1)「而況於二明哲一乎。」の解釈としてもっとも適当なものを次の中から選びなさい。

A　賢者の場合でも不可能である。
B　賢者になることは無理である。
C　賢者の場合はなおさらである。
D　賢者のようになれるだろうか。
E　賢者の場合にはどうだろうか。

〔問二〕　傍線(2)「将崇極天之峻、永保無疆之休」は、「まさにきよくてんのしゆんをたかくし、ながくむきやうのきうをたもたんとす」と読む。これに従って、「保」字の下に付く返り点を書きなさい。（返り点以外に何も書かないこと）

保

〔問三〕 空欄⑶に入る漢字としてもっとも適当な一文字を本文中から抜き出して書きなさい。（漢字以外に何も書かないこと）

〔問四〕 傍線⑷「何也」の読みを、送り仮名も含めて全て平仮名で書きなさい。（平仮名以外に何も書かないこと）

〔問五〕 本文の内容に合致するものを次の中からひとつ選びなさい。

A 君主が国土の保全に努め、山林、河川、道路を適切に維持するのは、統治の基本である。

B 人間性の高い君主ならば、自分の思い通りに行動しても権力が不安定になることはない。

C 君主というものは、常に国のことを考える立場なので、心配から解放されることはない。

D さまざまな君主が、権力を手にした後で、態度や行動をよくない方向に変化させている。

E 君主が気前のよさを見せると人々は安心するので、国家は安定を維持する方向に向かう。

三　次の文章は、丹薬をつくる過程で人が誤ってそれを服用した事故をめぐる話である。これを読んで後の設問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点、送り仮名を省いたところがある。

予(われノ)中(注1)表兄李善勝ハ、曾テ与二数年輩一錬リテ二朱(注2)砂ヲ一為(つくル)レ丹(注3)ヲ。経テ二歳余ヲ一、因リテ二沐(あらヒテ)(注4)レ砂ヲ再ビ入ルルニ一レ鼎ニ、誤リテ遺(のこシ)二‐下ス一塊ヲ一。其ノ徒丸メテ服シレ之ヲ、遂ニ発シ二懵(注5)冒ヲ一、一夕ニシテ而斃ル。朱砂ハ至良ノ薬ニシテ、初生ノ嬰子モ可キモレ服ス、因リテ二火力ノ所一レ変ズルニ、遂ニ能ク殺スレ人ヲ。以テ二(1)変化ノ相対ヲ一言ヘバレ之ヲ、既ニ(注6)能ク変ジテ而為ルバ二大毒一ト、(2)豈不能変而為大善。既ニ能ク変ジテ而殺セバレ人ヲ、則チ宜シクレ有ル二能ク生カスレ人ヲ之理一。但ダ未ダレ(3)得二其ノ術ヲ一耳。以テレ此ヲ知ル(4)神仙羽化(注7)之方、不可謂之無、然レドモ亦不ルレ可カラレ不ルレ戒メ也。

（『夢渓筆談』による）

（注）
1　中表兄——いとこ。
2　朱砂——硫化水銀。加熱すると水銀に変化する。不死の仙人を目指す錬丹術において薬材としてよく使われた。
3　丹——服用すると不死になれるという丹薬。
4　沐砂——丹薬を錬成する工程の一つ。砂は朱砂のこと。
5　懵冒——昏睡状態に陥ること。
6　既——〜であるのだから。
7　羽化——羽が生えて仙人になること。

問

（A）══線部の「遂」と同じ読みの文字一つを、次記各項の中から選べ。

1　卒　　2　已　　3　常　　4　将　　5　与

（B）――線部(1)について。その例に該当するものとして最も適当なもの一つを、次記各項の中から選べ。

1　朱砂は大毒にもなれば、大善にもなる。
2　長く生きる人もいれば、早く亡くなる人もいる。
3　薬の作用はそれを服用する人によって変化する。
4　朱砂は人を仙人にもすれば、若返らせもする。
5　薬の力が強いほど、早く仙人に変わる。

（C）――線部(2)の訓読として最も適当なもの一つを、次記各項の中から選べ。

1　なんぞへんずるあたはずしてたいぜんとならんや
2　なんぞよくへんじてたいぜんとならざらんや
3　あにへんずるあたはずしてたいぜんとならんや
4　あによくへんぜずしてたいぜんとならんや
5　あにへんじてたいぜんとなるあたはざらんや

(D)　——線部(3)の読みを平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(E)　——線部(4)の解釈として最も適当なもの一つを、次記各項の中から選べ。

1　いったん仙人になった後でも、無為に過ごすと人に戻る
2　仙人になる処方は、無いと言うしかない
3　仙人になるのは、無の境地に至ることを言うのではない
4　仙人になる処方は、無いとは言えない
5　薬の力で仙人になろうとする人がいなくなるわけではない

(F)　本文の内容と合致するもの一つを、次記各項の中から選べ。

1　朱砂は、赤ん坊は服用できるが、大人が服用するのは危険である。
2　李善勝は仲間をだしぬいたため、とうとう仙人にはなれなかった。
3　火の力は人を死なせてしまうほど恐ろしいものである。
4　人を死なせる力を持つ物質を用いて人を生かすという方法は未確立である。
5　人を生かす道理は、仲間を犠牲にしてはじめて獲得されるものである。

模範解答

【第一講】

〈模範解答〉

一

問1　③
問2　②
問3　自分が以前通った道を覚えているという知恵
問4　④
問5　①
問6　不レ難レ師二於老馬与レ蟻。
問7　⑤

二

問一　C
問二　保中
問三　流
問四　なんぞや
問五　D

三

A　1
B　1
C　5
D　のみ
E　4
F　4

〈現代語訳〉

一

管仲と隰朋は、斉の桓公に従って孤竹の国を伐った。春に出陣し冬に帰った。（帰途で）迷って道がわからなくなった。管仲が言うには「老馬の知恵を利用できる」と。そこで老馬を放ち、それについて行き、その結果正しい道に戻ることができた。山中を行くと水がなくなった。隰朋が言うには「蟻は冬には山の南側にいて、夏には山の北側にいる。蟻塚が高さ一寸ならば、その下に水がある」と。そこで地面を掘り、その結果水を手に入れることができた。管仲の賢明さと隰朋の知恵とをもってしても、自分が知らないことに出くわすと、老馬と蟻を師とすることをためらわない。（それなのに）今の人は、自分の愚かな考えを用いるばかりで聖人の知恵を師とすることを知らない。なんとも間違えているではないか。

二

私は聞いたことがある、「木が生長することを求める者は、必ずその根元をしっかりと固め、水の流れが遠くまで届くことを願う者は、必ず水源を深く掘り、国家が安定であることを考える者は、必ず自身の徳義を高めるのだ」と。水源が深くないのに流れが遠くまで届くことを望み、根元がしっかりしていないのに木が生長することを求め、徳が厚くないのに国家が治まることを考えるのは、とてもおろかな私であっても、それが不可能だとわかる。まして賢者の場合はなおさらである。君主は帝位にあり、天下に君臨し、君主として徳義を高め、いつまでも終わりのない平安を維持しようとするものだ。（それなのに）安定の状況でも危険な時のことを考えたり、贅沢を戒めて倹約を旨とすることを考えたりせず、自身の徳は厚くなく、心は欲に勝てないのは、これは根を切ってそして木が茂ることを求め、水源をふさいでおきながら流れが遠くまで届くことを願うものである。さまざまな君主が、大いなる天命によって帝位に就き、深く心配して道徳的に優れていて、（しかし）帝位に就いた後には徳が衰えてしまわない者はいない。上手に始める者はとても多いが、上手に最後までやり通すことができる者は思うに少ない。なんと天下を手に入れることは簡単で天下を治め続けることは難しいのではないか。昔、天下を手に入れて（徳が）余るほどあり、現在は天下を治め続けて（徳が）足りなくなるのは、どうしてか。そもそも深く心配している時には、必ず誠意を尽くして下の者に対応するが、現に目的を達成すると心の赴くままに行動して他者に傲慢になる。誠意を尽くせば呉越のような敵対関係にある者も一致団結し、他者に傲慢になると肉親も通行人（のように他人）となる。

三

私のいとこの李善勝は、かつて数人の同世代の者と硫化水銀を練って不死になれるという丹薬を作った。一年余りを経て、硫化水銀を洗って再び鼎に入れたところ、誤って一塊を取り残してしまった。その仲間が丸めてそれを服用し、その結果昏睡状態に陥り、一晩で死んでしまった。硫化水銀はこの上ない良薬であって、生まれたばかりの赤ん坊も服用できるが、火力で変化させることによって、その結果人を殺すことができる。変化に応じて（性質が）相対的に変わることから言えば、変化して大毒となることができるのだから、どうして変化して大善となることができないか、いや、できる。変化して人を殺すことができるのだから、人を生かせる道理もあるはずだ。ただその方法がまだ見つからないだけだ。このことによって知るのは、

仙人になる処方は、無いとは言えない、だけどまた注意しないわけにはいかないのである。